

2025年度 内灘町初心者弓道教室を終えて

だいぶ日が経ってしまいましたが、毎年恒例の内灘町初心者弓道教室のご報告です。

GW明けの5月8日(木)の開講式に始まり、6月26日(木)の閉講式まで、週2回、全15回を終えました。

今年の受講生は16歳から55歳までの男女5人。例年よりも少人数だったため、ほぼマンツーマンで指導できたことに加え、受講生のうち3人が経験者ということもあって、上達具合は目覚ましく、教室はスムーズに進みました。

ユニークなのは、内灘中学校で英語の指導助手を務めるアメリカ人のショーンさん。筋骨隆々でパワフルな彼はアーチェリーの経験があり、はじめのうちは引き方もアーチェリーそのものでした。そんな彼に、「日本の弓は、力任せに引っ張るんじゃないんですよ～、『射法は弓を射ずして骨を射ることもっとも肝要なり』と言いましてね…」などと話しても伝わるはずもなく、「手先の力に頼らずに…」とか「胸を開くように肩を落とすように体の中心に近い筋肉を使って…」といった感じで解説しましたが、どこまで伝わったのか…。

ショーン「ホネ？」

ワタシ「あ、骨は "Bone" の事ですね。ボーン。それで、ボーン！と離す…」

どうしても時折はさんでしまわずにはいられないオヤジギャグは、逆に理解を妨げてしまったかも…(汗)

それでも後半になるにしたがって、少しずつ日本の弓への理解が進んだのか、アーチェリーっぽさは少なくなってきました。鉄石相剋して火の出ずるように離れて金体白色西半月の位にたどり着くのはそう遠くないかもしれません。

教室では、皆さんに射法八節をはじめ、立ち方・歩き方・礼の仕方や入退場など、一通り学んでもらって、最終日には立射での一手行射を披露してもらいました。15回という短い期間で本当によく仕上がった受講生たちで、講師陣も感無量です。全員が引き続き弓道協会に入ってくれて、内灘町弓道協会はますます活気づいています。

受講生の一人、医科大生の池淵さんに感想文を書いてもらったので、以下、転載いたします。

~~~~~

弓道体験を終えて

池淵咲生

私は高校生の頃、約8ヶ月間だけ弓道をしていましたが、すぐにやめてしまい、それ以来ずっと後悔の気持ちを抱えていました。そんな中、当時ご指導くださっていたコーチが亡くなったという知らせを聞き、とても悲しくなりました。せっかく教えていただいた弓道を何も覚えていない自分に、悔しさと寂しさを感じたのです。その出来事をきっかけに、「もう一度、弓道に向き合いたい」と強く思い、8年ぶりに再開することを決意しました。

とはいえ、ブランクも長く、ほとんど初心者同然でしたので、基礎からしっかり教えていただける場所を探していました。そんな時、内灘で初心者向けの教室が開かれているという広告を目にし、思い切って申し込むことにしました。

初日は緊張しながら弓道場に向かいましたが、到着してみると、とても温かい雰囲気に包まれていて驚きました。私が名前を名乗る前から「池淵さんね？ 待ってたよ～」と笑顔で迎えてくださり、心が一気にほぐれたのを覚えています。指導も本当に丁寧で、まさに手取り足取り、一つひとつを分かりやすく、親切に教えてくださいました。こんなに優しく温かい環境で再スタートできたことを、とても幸運に思います。

普段の生活の中で、弓道に触れる機会はそう多くありません。だからこそ、このような初心者教室の存在はとても貴重ですし、このような機会に恵まれたことに心から感謝しています。「弓道は誰かと競う

ものではなく、己と向き合うものだ」と聞いたことがあります。私の弓道の道はまだ始まったばかりですが、教えていただいたことを大切にしながら、これからも自分自身と向き合っていきたいと思っています。これからも、どうぞよろしくお願いいたします。

~~~~~

今年の教室生は、初めて弓道に触れたアメリカ人のショーンさんや、長年のブランクを経て弓道を再開した池渕さん、それに文中触れませんでした、娘さんが部活で弓道を始めたことに触発されて教室の門を叩いたお父さんや、中学の部活や地域の道場で弓道を経験して今回再開した青年たちもいました。千射万箭のごとく、人それぞれに弓道とのご縁があるものだと思います。この一人ひとりのご縁を大切に未来につないでいく手助けが出来るよう、開かれた弓道協会でありたいと思います。





